

■（１７８）視覚障害者を支援した男性が釜石を去った

被災地の視覚障害者を支援してきた常盤正勝さん（６９）が拠点とした岩手県釜石市を９日に去った。半年の活動で親友になった弱視の男性（６７）と無償で自宅の部屋を貸してくれた女性（８５）らが駅ホームまで見送りに来た。握手と万歳三唱。最後は涙だった。

目の不自由な人は記憶に頼って外出する。津波で町が壊されて、住み慣れた土地を離れた。３年過ぎると、今度は復興で町並みが刻々変わり、出歩くのに困っていた。その助けのため、常盤さんは釜石や隣の大槌町を奔走した。元兵庫県警警察官。その気力と体力で、ほとんど休みなく動き回った。加えて、関西人らしくだじゃれを連発し、目の不自由な人たちから愛された。直前の送別会も盛大だった。目の不自由な人と一緒に、仮設の飲み屋街に繰り出した。魚料理を堪能したら、次は仮設スナック。全盲の女性が、持参した点字の歌詞カードにない曲を選んだら、常盤さんが耳元で歌詞を読み上げてサポートした。

常盤さんの外出支援の後継者はいない。「我々もいつまでも被災者じゃだめだ。自立するようがんばります」。列車を見送った男性は白杖をつきながら改札に向かった。（山）